⑬公家奴振りを伝承

滋賀県湖北地方は、歴史的にも古く、多くの民俗芸能が今日まで伝承されているエリアです。

私が育った米原市長沢地区には、「公家奴振り」という伝統的行事があります。

浄土真宗本願寺の連枝寺でもある福田寺（ふくでんじ）は、浄土真宗の中興の祖、蓮如上人が3年間滞在したといわれる別名「長沢御坊」で、毎年春（5月）と秋（11月）に開催されています。

奴振りは京都の時代祭にも登場しますが、当日は、紺色の法被、脚絆（きゃはん）、草鞋（わらじ）姿の奴（やっこ）たちが、「ヨーイヤセ、アレワイサーノサ」の掛け声とともに、寺周辺などを練り歩きます。県の無形民俗文化財にも指定され、当日は多くの見物客でにぎわいをみせます。

長沢地区に限らず、家奴振りが演じられるのは長沢地区だけともいわれています。足裏を見せない古式ゆかしい歩き方が、見物客の心を魅了していきます。

地域と共生

日本鉄道OB会

今、全国各地で地域の伝統芸能やその土地独自の風習の継承が大きな課題になってきています。OB会の活動テーマは「地域との共生」。伝統を受け継ぐ若い人材の育成に取り組んでいます。

（西日本鉄道OB会大阪地方本部近江支部・北川喜久男、85）

「公家奴振り」の伝承活動に取り組んでいる北川さん（右）

⑭笠間観光ガイドとして

JR退職後、郷土に関心を持った私は、笠間観光協会（茨城県）の「笠間ふるさと案内人の会」に入会し、観光ボランティアなどの活動を始めました。

平成30年には、茨城を心から愛し、その魅力を観光客に説明することができる上、高い接遇スキルを有する人を認定する「いばらき観光マイスターS級」の資格を取得することができました。

笠間市は関東の小京都として親しまれ、日本三大稲荷の一つ、笠間稲荷神社があることでも有名です。また、鎌倉時代には笠間城が築かれたという記録もあり、歴史的にも魅力あふれる地域です。

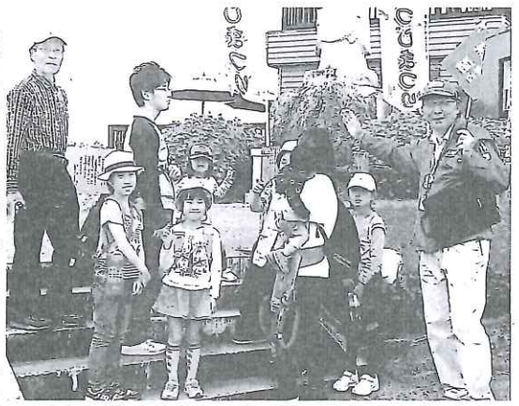
毎年春には「笠間つつじまつり」「笠間の陶炎祭（ひまつり）」、秋には「笠間の菊まつり」などが開催されます。参拝者などを含めた年間観光客数は約3００万人。観光ガイド役を務める私としては、地域の魅力発信の観点から、さまざまな角度、切り口での観光案内に取り組んでいます。

観光ボランティア活動と並行して、２００６年ごろから関心を持ち始めたのが「千成瓢箪（びょうたん）」などの製作です。種から育てて、加工するもので、出来上がったランプ、ストラップなどはOB会員にプレゼントしています。

（東日本鉄道OB会水戸地方本部友部支部・武田章、72）

地域と共生

日本鉄道OB会


観光ガイドとして笠間の魅力を伝える武田さん（右端）